

尿道形成術の治療成績を予測する因子の検討に関する研究

1. 研究の対象

2004年8月から2020年2月までの期間に当院で尿道狭窄症にて尿道形成術を受けた方

2. 研究目的・方法

尿道狭窄症は外傷、尿道カテーテル留置や経尿道的手術、尿道炎の後遺症として発症します。尿道の線維化、癒痕化によって尿道内腔が狭くなり、排尿困難が出現します。重症化すると自力での排尿ができなくなり、適切に治療を行わないと尿路感染症や腎機能障害を併発する可能性があります。尿道狭窄症に対する根本的な治療法は尿道形成術です。この研究は、どのような要因が尿道形成術の成功に影響を与えているか検討するのが目的です。本研究期間は倫理審査結果通知書の発行日から令和6年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、術前に行った検査結果（尿道造影、内視鏡、MRI 画像所見）、周術期の検査結果、手術時に切除した尿道狭窄部の病理スライドなど

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校病院泌尿器科学講座 堀口 明男（研究責任者）

〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-2 TEL:042-995-1511（内線 2392）

-----以上